

総合教育企業中央出版(株)を筆頭に、(株)ティーエムホールディングスが 管理業務を行っているグループ各社約5,000台のPCへ 『Kaspersky Endpoint Security for Business Select』を導入 高レベルかつ統一されたセキュリティ環境を実現

株式会社ティーエムホールディングス



■ 会社概要

中央出版は、「学ぶ楽しさ、発掘したい」をコンセプトに、業界の常識にとらわれることなく、独自の企画力と開発力でオリジナリティ豊かな制作物を世に送り出してきました。現在は教育総合企業として、多様化する家庭教育・国際教育・社会教育の環境をサポートすべく事業展開を進めています。また、「生きる実感を持てる社会づくりに貢献する」というコンセプトの“プロジェクトKTC” (<http://www.project-ktc.com/>) に取り組んでおり、「EDUCATION」「GLOBAL」「HEALTH」「LIFE」「FOOD」の5つのカテゴリーで、さまざまな活動を展開しています。

■ 業種

教育出版

「学ぶ楽しさ、発掘したい」をコーポレートメッセージに、独自の企画力と開発力で教育図書・教育教材・教育システムなどを企画・制作してきた中央出版。その領域は子どもの教育関連に留まらず、一般書籍の出版や「ごほんくらし」をテーマとする出版物とワークショップを連携させたパブリックスタジオの展開など、人々の知的好奇心を触発する活動を幅広く行っている。

事業領域が拡大するにつれて、教育・出版事業以外にもさまざまな事業も行うようになり、顧客ニーズに“よりマッチした活動”を行うため分社化政策も進められた。以来、数多くの関連会社等も誕生した。特に教育事業・出版事業などの事業戦略を統括する会社として設立された持株会社に「(株)ティーエムホールディングス」がある。同社では、ホールディングス傘下のグループ会社の管理業務を広く請け負っている。その主要部門の1つとして、各社の情報システムの構築・運用管理を担い、情報化戦略をサポート・推進しているのが「ティーエムホールディングス情報化推進室」になる。

セキュリティ上の課題

ティーエムホールディングスの情報化推進室が管理する情報システムネットワークは4つあり、中央出版を中心とした主要ネットワークだけでも、データセンターを中心に約650拠点を結んでいる。その他も含めた総拠点数は約740カ所に及び、クライアントPCは5,000台を超える。

これら各社・各部門のクライアントPCは、7年ほど前までそれぞれ独自で調達されていた。当然ながらクライアント用セキュリティソフトの導入・管理も、すべて各社の担当部門に任されていた。

「クライアント用セキュリティソフトは推奨メーカーが決められてはいましたが、製品の調達は各社が個別に行い、日常の運用管理は各部門などの現場に任されていました。そのため、どのバージョンが導入され、バージョンアップはされているのか、あるいはウイルス定義ファイルの更新が確実に行われているのか、一部を除いて情報化推進室ではまったく把握できていないのが実態でした。ITガバナンス的にも、セキュリティ管理的にも問題があるため、機器の調達をはじめ、クライアント運用管理ソフトの導入による統合管理を弊社の情報化推進室に一元化しようという計画がありました」(ティーエムホールディングス情報化推進室係長 黒部雅之氏)。

情報化推進室では、これを機に推奨していたウイルス対策ソフトを、2008年当時の最新版にバージョンアップし、ライセンス管理・運用管理を一元化してコスト削減を図ろうとした。ところが、「使用しているPCスペックが各社あるいは各部門で異なっているため、中にはすでに導入していたウイルス対策ソフトでも動作が重いケースもあり、苦情が出ていました。さらにそれを最新バージョンにアップグレードすると動かないPCも出てきてしまいました。」(黒部氏)と、新たなクライアント用セキュリティソフトへの全面リプレースを検討した経緯を述べる。

[Kaspersky Endpoint Security for Business Select]

■ お客様のコメント

クライアント運用管理ソフトによる統合管理と合わせてセキュリティ管理、ライセンス管理が一元化でき、管理業務を請け負っている各社全体で統一したセキュリティ環境を維持できるようになりました。また、定義ファイル更新のスケジューリングが可能のため、帯域の狭いネットワーク環境のところでも、トラフィックに大きな影響を与えることなく更新作業できるのも大きなメリットです。

株式会社ティーエムホールディングス
情報化推進室係長
黒部 雅之氏

■ 課題

- 各社・各部門で個別調達したウイルス対策ソフトの製品・バージョンの統一
- 各現場に一任されたセキュリティ管理の一元化、セキュリティレベルの一定化
- ウイルス対策ソフトによるPCパフォーマンス低下の解消

■ カスペルスキーのソリューション

Kaspersky Endpoint Security for Business Select
- Kaspersky Endpoint Security for Windows
- Kaspersky Security Center

■ 結果

- 統合的な一元管理による統一されたクライアントセキュリティ環境維持の実現
- 統合的な防御機能によるクライアントセキュリティ対策の強化
- セキュリティ対策ソフトのPCパフォーマンスへの影響の解消

〈お問い合わせ先〉

株式会社カスペルスキー

〒101-0021

東京都千代田区外神田3-12-8 住友不動産秋葉原ビル7F

<http://www.kaspersky.co.jp>

jp-sales@kaspersky.com

Kaspersky Endpoint Security for Windows、Kaspersky Security Centerは、Kaspersky Lab ZAO の登録商標です。その他記載された会社名または製品名などは、各社の商標もしくは登録商標です。
記載された内容は、改良のため予告なく変更される場合があります。
©2015 Kaspersky Labs Japan

ソリューション

新たなクライアント用セキュリティソフト選定に際しての要件は、従来と同等のウイルス対策だけでなく、ネットワーク脅威の増大に対応して、スパイウェアなどマルウェアの防御、IPS機能を備えたパーソナルファイアウォールなど総合的なエンドポイントセキュリティを実現できること。また、それまで実現できていなかったクライアントPCのセキュリティ管理を一元化することだ。もちろん、これらの要件を満たしながら、イニシャルコストとランニングコストを削減することも重要視された。

Kaspersky Endpoint Security for Business Selectを採用した理由は、定義ファイルの更新頻度が高く、未知の脅威を含めた検知率の高さと総合的な保護対策としてのコストパフォーマンスだったという。

「更新頻度、検知率が高いという評判はネットの情報で知っていました。また、中核ネットワークのゲートウェイに導入しているセキュリティアプライアンスのアンチウイルスエンジンにカスペルスキー製品が採用されており、実際にその優秀さを認識していましたが、検討候補に挙げていた他社のウイルス対策ソフトと比較検証して、そのすばらしさをあらためて確信しました。特に導入当初、従来のウイルス対策ソフトと併用していた時期がありますが、従来ソフトで検知漏れがあってもカスペルスキーは確実に検知・駆除できていました。また、Kaspersky Endpoint Security for Business Selectがマルウェア防御やIPS機能を包含しているのに対し、比較検証した対策ソフトはオプションで機能追加しなければならず、コスト増を招くという理由もありました」。黒部氏はKaspersky Endpoint Security for Business Selectを採用した理由をこう指摘する。

結論: セキュリティの新基準

Kaspersky Endpoint Security for Business Selectの導入によってもたらされた最大の効果は、Kaspersky Security Centerによる統合一元管理ができるようになったことだという。それまでエンドユーザー任せだった定義ファイルの更新や定期的なスキャン作業が情報化推進室で管理され、全クライアントPCのセキュリティレベルを最新状態に保つことが可能になった。

「クライアント運用管理ソフトによる統合管理と合わせてセキュリティ管理、ライセンス管理が一元化でき、管理業務を請け負っている各社全体で統一したセキュリティ環境を維持できるようになりました。また、定義ファイル更新のスケジューリングが可能のため、帯域の狭いネットワーク環境のところでも、トラフィックに大きな影響を与えることなく更新作業できるのも大きなメリットです」(黒部氏)。

一方、さまざまな最適化技術を実装するアンチウイルスエンジンにより、クライアントPCのパフォーマンスへの影響が小さく、スペックが不十分なPCでも快適に動作し、エンドユーザーの苦情も聞かれなくなったという。特に、iSwiftとiChecker技術によって、2回目以降のオンデマンドスキャンが非常に短時間で実行されるため、エンドユーザーがスキャンを意識しないで実施されていることを高く評価している。

さらに黒部氏は、「一元化されたセキュリティ管理によるメリットはもちろんですが、Kaspersky Endpoint Security for Business Select導入によって未知のウイルスやマルウェアの脅威からの防御、ファイルシステムや安全な通信の保護など、エンドポイントの総合的なセキュリティ対策強化がなされたことが最も大きなメリットでしょう」と強調する。

今後、ティーエムホールディングスでは、現在運用中の情報システムネットワークを更改し、広帯域化を図る計画だ。それにより、各社または各部門に置かれているファイルサーバーを本部のデータセンターに集約してデータの管理・保護を強化する。その際にはファイルサーバーのセキュリティ対策として、Kaspersky Endpoint Security for Businessのファイルサーバー向け製品の導入も検討していくという。